

# 明治から続く夷王山まつり



## 夷王山まつりの歴史

夷王山まつりは、明治25年6月15日に、当時の上ノ国村他6力村戸長らが発起人となり、現在の勝山、大留、北村などの地区を中心に初めて開催されました。

当時、夷王山まつりを始めた人々は、かつてこの地を拠点とした武将「武田信広」が永禄元年（1457年）6月15日に大きな戦いを征して北海道和人文定着の礎を築いたことから、偉大な祖先に敬意を払い、その御霊を鎮魂するためにこの祭りを創始したとされています。

夷王山まつりは現在も続く神楽舞などの伝統神事のほか、勝山、砂館、安在の各小学校の運動会を夷王山の麓で合同開催し、その後も有志や青年団がツツジの咲く頃に祭

りを開催してきました。

また、青年団が麓から夷王山神社までを継走する駅伝大会、各小学校から代表を選抜して行われる少年相撲大会などの記録も残っており、当時の暮らしの中で多くの方々がこのお祭りを楽しみにし、参加していたと伝えられています。

昭和に入ると新しい催しも増え、モトクロスなどの激しいバイクレースが現在の夷王山キャンプ場がある位置で開催

催されていた時期もありました。

また、武田信広が松前の大館を奪還した際の作戦になぞらえて行われている松明行列も、当時は地元の若者が勝山館少年武将隊として、具足を身にまとい、松明や提灯を片手に夷王山神社を目指したとされています。

（本特集の一部内容については、続・上ノ国村史の内容を参考にしていきます）



相撲大会



モトクロス大会